

設備工事情報シート	衛 生	I - P - 7	制 定	2005年4月1日
			改 訂	2015年3月1日
I. 施工要領	通気金物と配管		中部コーポレーション編	

1. 目的・概要

屋上伸長通気設備に使用される各種通気金物部分にて接続不良による漏水トラブルが発生する場合がある。

ここでは、施工時の施工要領及び注意ポイント点検方法について紹介する。

以下に通気管接続用防水継手の施工要領及び施工ポイントを示す。

2. 施工手順および注意ポイント

(1). スラブ打込みタイプ (CPJ・CPJ-5)

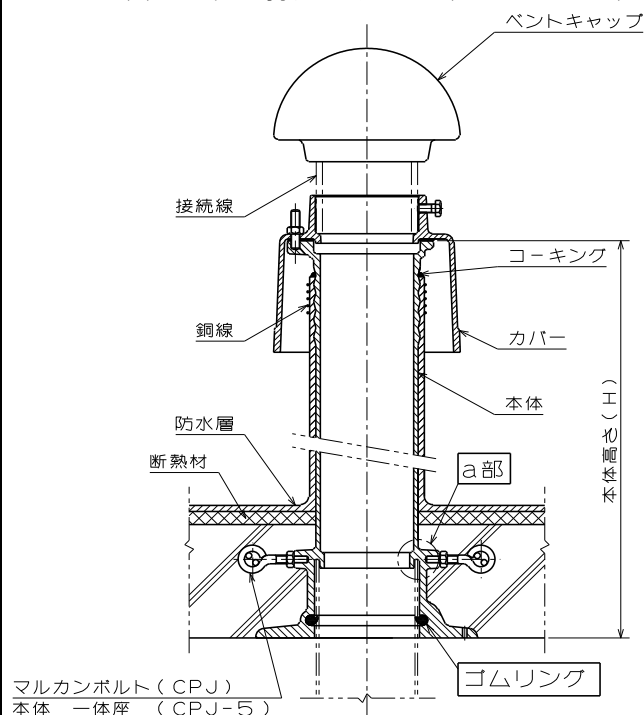


図-1 本体打込み納まり

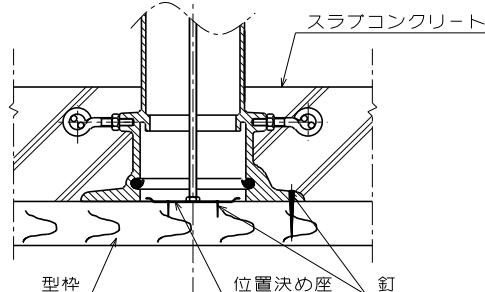


図-2 スラブ打ち込み詳細



写真-1 スラブ配筋と本体結線詳細

(1) 通気金物本体スラブ打込みタイプ (CPJ・CPJ-5)

- ①スラブ型枠上に墨だしを行う。
- ②墨だし位置に位置決め座を固定し本体をセットする。
さらに 本体と型枠を釘で固定しておく。
(図-2参照)
- ③スラブ配筋と本体を打設時に動かないよう結線する。(写真-1参照)
- ④コンクリートを打設する。
- ⑤コンクリート養生後、本体に通気管を挿入する。挿入の際、管に飲み込みマーキングを行い所定の飲み込み (90mm) が有るかを確認し、挿入する。通気管は、スラブ底直近にて脱落防止金物にて強固に支持をとる。

注意

- ※通気管の先端は、本体差込部 a まで確実に入れる。(図-1参照)
- 差込完了後、a部管との隙間にシール (ポリウレタン系) 処理を行う。
- 差込不足の場合、すき間が出来配管外部に結露が流れ出る場合がある。
- ※通気管挿入の際、通気金物本体に付属ゴムリングの装着を忘れない。(図-1参照)

- ⑥通気管接続完了後、通気金物頂部より鏡にて内部差込部分に隙間の無いことを確認する。
- ⑦防水層を巻き上げ本体上部の位置で銅線又はSUSバンドにて固定する。
その際、上部末端にはコーキングスペースを残しその部分をシーリング材にてコーキングする。
- ⑧接続管を立ち上げカバー・ベントキャップを取り付ける。

注意

- ※防水層上部に押さえコンクリート仕様の場合熱伸縮による通気金物本体の破損の恐れが有る為、本体とコンクリート間に干渉材を入れる。

(2). スラブ打込み分割タイプ (CPJ-KS、CPJ-KLS、CPJ-KLLS)

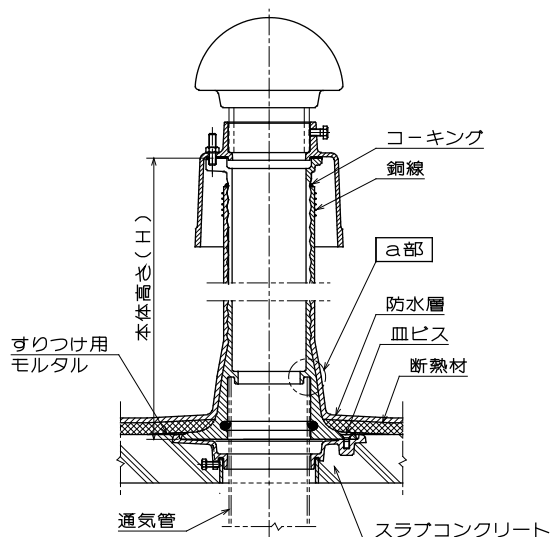


図-3 分離タイプ納まり

(2) スラブ打込み本体分割タイプ (CPJ-KS、CPJ-KLS、CPJ-KLLS)

- ① 躯体打ち込み用本体から通気配管突き出し寸法管理の厳守。
- ② 通気金物本体を通気配管に挿入時、付属ゴムパッキンの装着を確認する。
又、挿入時ゴムパッキンに石鹼水を付けることで挿入が用意になる。
- ③ 本体挿入後、必ず通気管の先端が図中の a 部分に確実に入っていることを確認する。
差込完了後、a部管との隙間にシール（ポリウレタン系）処理を行う。
- ④ 打ち込み本体と通気金物本体との接触面周囲にシールを行う。
- ⑤ 本体つば部分の段差を解消する。モルタルでのすり付けを行う。

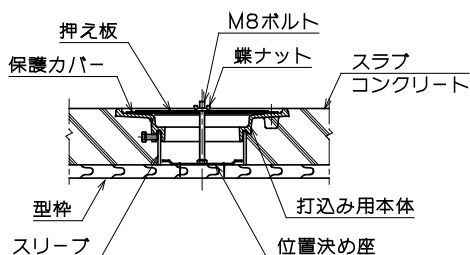


図-4 分離金物打込み部分納まり

(3) 本体後付けタイプ (CPJ-K、CPJ-KL、CPJ-KLL)

- ① 配管用スリーブは、通気金物本体固定用アンカーに掛からない様、サイズを決めて取り付ける。
- ② スラブ面からの通気配管突き出し寸法管理の厳守。スラブ貫通部分の穴埋めは、モルタルにて充填した後、表面に塗布樹脂防水を行う。
- ③ 通気金物本体を通気配管に挿入時、付属ゴムパッキンの装着を確認する。
又、挿入時ゴムパッキンに石鹼水を付けることで挿入が容易になる。
- ④ 本体挿入後、必ず通気管の先端が図中の a 部分に確実に入っていることを確認する。
差込完了後、a部管との隙間にシール（ポリウレタン系）処理を行う。
- ⑤ 本体つば部分の段差を解消する。
モルタルでのすり付けを行う。

(3). 後付けタイプ (CPJ-K、CPJ-KL)

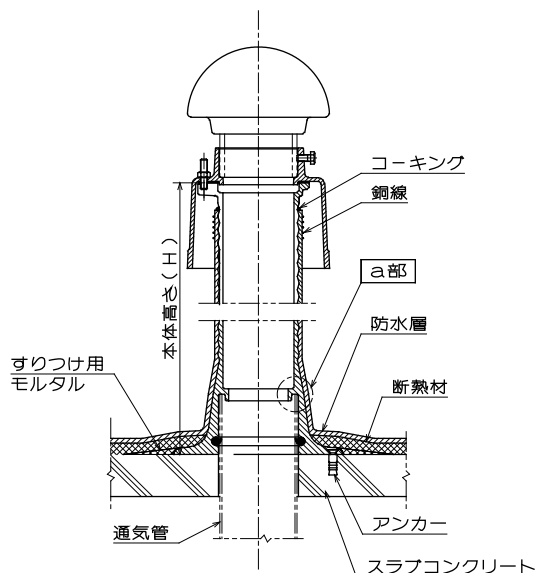


図-5 後付け納まり

3. 問い合わせ先

株式会社 中部コーポレーション
Tel 03-5833-9966